

## 「ものを長く使うことについて」

5年 S.S

あるテレビ番組を何気なく見ていると、壊れてしまったかさを直すという職人の方が出ていました。それはフランスのお店でした。その番組でかさを直してもらいに来ていた依頼者の方が持ってきたかさは、なんと、1860年代に買ったものだということでした。職人の方はいくつもの部品を持っていて、それらを使ってかさを元通りに直していました。私はそんなに昔のかさを直せるほどの部品を持っていることと、そのようなかさを持っている人がいることに驚きました。また、代々そのかさを譲り受けてきたのか、そのかさがきれいに直って戻ってきた時の依頼者の方の、ほっとしたような嬉しそうな表情が印象的でした。

そのテレビを見た後に、私は、日本ではどうなのだろうと思ったので調べてみると、かさの修理を行っているという店は、私が想像していたよりも多くあり、中にはチェーン店もありました。よく考えてみると、かさの修理店は見たことがありませんでしたが、くつを直す店や、洋服の仕立て直しの店は見たことがあるなと気がつきました。これらをきっかけに、一つのことを大切に使うということについて考えてみました。

普段おそらく、壊れてしまったかさはそのまま捨ててしまうでしょう。くつも、すり減ってしまったり、穴が空いてしまうと、使い道はほとんどないと思います。冒頭で話したような、かさが壊れたら直してもらいに行くという人は、とても高価だったり、思い入れのある大切なかさだったりしない限りは、ほとんどないと思います。私も、かさが壊れてしまった時は捨ててしまっていました。そう考えると、壊れてしまったものを直して使う機会はあまりないのかも知れません。また、今はビニールがさがコンビニで売っていて、雨が降ったら、かさを忘れてもすぐに手軽に買えるので、捨てることにもあまり抵抗感が無いように思います。

ビニールがさとは使う頻度が違いますが、昔は何度も同じ物を使っていただけで、今は一度使ったらまた次の新しい物を使う使い捨てのものが出来た、という例は多いと思います。中には、マスクやデパートなどのトイレに設置されているペーパータオルなど、使い捨てであることが当たり前だと思うようなものもあります。他にも、紙コップや紙皿、割り箸など、私たちの生活には使い捨て商品が浸透しています。私が今まで知らず、驚いたものでは、使い捨て哺乳瓶がありました。こんなに多くの使い捨て商品があることからも分かりますが、使い捨ての商品には多くのメリットがあります。その利点を挙げると、洗ったりする手間が省けて便利です。大勢の人が集まる時でも、紙皿や紙コップだとたくさん用意できます。また、特にマスクやペーパータオルは、普通の布タオルや布マスクに比べて、衛生面でも優れていると思います。やはり、使い捨て商品は、使ったらそのまま捨てるだけという便利さ、簡単さが魅力なのだと思います。しかしその一方で、すぐ捨てられるということが欠点にもなります。それには、ゴミの量の増加に影響することがまずあります。また、捨てるのが当たり前になってしまって、捨てることに抵抗がなくなっ

てしまい、次々に新しいものを買ってしまうことにも繋がってしまうかも知れません。例えば、スマートフォンもそのような感覚で新しいタイプが出るとすぐを買ってしまう人もいます。捨てられたスマートフォンはかなりの量になる上に、新しいものを作る際の鉱石の採掘で自然破壊にも繋がります。こういうことは、私たちが少し我慢すれば良いのだと思います。とはいえ、使い捨て商品を全く使わないとか、新しいものを買わないのは難しいので、出来る範囲でなるべく使わないようにするしかないのだと思います。私自身、家の食卓などで何かこぼしてしまった時など、ティッシュを使ってふいてしまいがちなので、なるべく布巾を使うなど、小さなことでも心掛けたいです。何でも楽に済ませようとして面倒くさがってしまうのがいけないのだと思います。また、かさなどの、壊れたり失くしたりしない限り使えるものは長く大切に使うようにしたり、洋服だったら、知り合いや親せきに譲ったり、くつであれば、はかなくなったものを引き取ってくれる店もあるので、そのように少し工夫して活用するのも良いと思います。再利用できるもので言えば、衣服やかばん、くつなどは汚れたり壊れたりしていなければ、寄付したりフリーマーケットに出品することも出来ます。最近では、使わなくなった、もう要らないものを、ネットを通じて割と手軽に売り買いできるので、それらを利用して、再利用に繋げているという人もいます。私自身は、衣類が使いものにならなくなった場合は、雑巾として使っています。これらのことは、ゴミの減少に大きく貢献しているとは言い難いかも知れませんが、ちょっとしたことでも重なれば差が出てくると思います。

私自身は、一つのをずっと使い続けるタイプで、親からも時々、「物持ちがいいね。」と言われます。筆箱やくつから携帯電話まで、一度買ったなら長いこと使い続けていました。そのため、処分する頃にはどこかが壊れていたり、くつだったら底がすり減っていることが多くありました。このようにボロボロになるまで使い続けるのも、確かに長い時間使えていますし、どこかで捨てるのがもったいないという気持ちを持っているからそのような行動を取っているのかも知れません。しかし、気に入ったものだったら、少しずつ直しながら使うのも良いなと思いますし、捨ててしまう回数も減ると思います。

ここまで、使い続けられるものについて述べてきましたが、今の日本では、その他にもゴミ問題がよく取り上げられ、ゴミを減らすための対策もなされています。大量に捨てられていて、努力すればその量を減らせるものと言えば、やはり食べ物が一番に思い浮かぶのではないかと思います。対策として、例えば、会社の飲み会などで、食事を完食するために、最初と最後は立ち歩かず、席に座って料理を食べる時間を設けている所があったり、お寿司屋さんで食べ残しを防ぐために、小さいサイズのシャリも頼めるようになっている店があったりなどの工夫がされているそうです。賞味期限の過ぎたものは売ることができず捨てられてしまう可能性が高いので、スーパーで食材を選ぶ時に、使い切れるものは、なるべく賞味期限の近いものから意識して取ることにしています。

今は高校生なので、小さくなってしまっただけで買い換えなければならないこともありますが、これから先色々なものを買う機会が増えた時に、直したらずっと使い続けられるものを買

えたらいいなと思います。少しのゴミでも多くの人が捨てる则大量のゴミが出てしまうけれど、小さな節約でもたくさんの人が行えば、かなりのゴミが減るように、小さなことの積み重ねでも多くの人が行うことで、良い方にも悪い方にも転がります。いちいち直してもらいに行くのは面倒くさいと思うかも知れませんが、長く使えばそれだけ愛着も沸くと思うので、一つ一つのを大切に使うようにしたいです。